日本高等教育学会 第 27 回大会
大会プログラム

（2024 年 5 月 26 日 修正第 2 版）

2024 年 5 月 25 日(土)・26 日(日)

会場：鎌倉女子大学 大船キャンパス

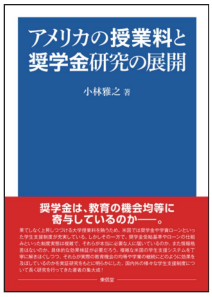
The 27th Annual Meeting

JAHER

Japanese Association of Higher Education Research

日本高等教育学会

鎌倉女子大学



アメリカの授業料と奨学金研究の展開

小林雅之著 A5・上製・520 頁・6820 円

アメリカはなぜ世界一になったか。人種のるつぼで偏見や排除などあるものの教育の機会を拡げ、世界中から移民と留学生を受け入れてアメリカを築いた。その要の一つが高等教育である。大学の授業料と奨学金のメカニズムを紆余曲折を経ながら今日のシステムとして機能してきた全体構造を実証的に解明した労作。

ミネルバ大学の設計書

スティーヴン・M・コスリン、ベン・ネルソン編著　松下佳代監訳 A5・528 頁・5720 円

ミネルバ大学はグローバルなリーダーを育てるためリベラルアーツ教育を基盤として、学習の科学、シリコンバレーの力を結集して創立された。しかし、その教育の内実は知られていない。本書はミネルバ大学の創立の哲学やカリキュラム、運営など大学教育の全てのテーマが網羅されている大著の待望の邦訳。

大学における教学マネジメント 2.0

―やらされ仕事から脱し、学びの充実のための営みへ―

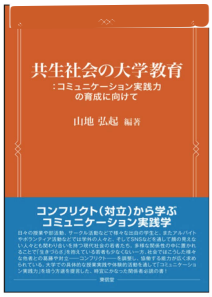
大学基準協会監修　大森不二雄編著 A5・264 頁・2860 円

教学マネジメントの名の下に学習目標の設定及びその評価方法が模索されてきた。しかし政策決定者や中間団体、大学執行部、教育現場間の齟齬の中で翻弄され、教員にとっては研究の枷となり、また学生にはその周知すら及んでいない現状にある。形骸化しつつある教学マネジメントの実態を数多くの様々な具体事例から改めて検証し、実際の授業や学習に反映させるべく「教学マネジメント 2.0」を提唱した **JUAA 選書第 18 弾！**

21世紀リベラルアーツと大学・社会の対話

大学基準協会監修　山田礼子編著 A5・296 頁・2860 円

VUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）と呼ばれる予測不可能な時代に要請される人材・能力育成に向け、各大学で「21 世紀型リベラルアーツ教育」が試行錯誤されている。より意義あるものとするために、不確実で流動的な時代であるが故に、大学と企業・社会との間での絶え間ない対話が必要だ。大学と企業双方を対象とした綿密な調査分析を通し、大学の教育実践内容と企業・社会が持つ期待との間にある齟齬を明確にした **JUAA 選書第 19 弾！**



共生社会の大学教育

コミュニケーション実践力の育成に向けて

山地弘起編著 A5・256 頁・2640 円

複雑な関係性に置かれることで「生きづらさ」を抱える若者も多い一方で、他者との葛藤や対立を調整し、協働する能力が求められる。授業実践や体験的活動を通して「コミュニケーション実践力」を培う方途を提言する。

韓国高等教育改革下の大学開放政策の展開

金明姫著 A5・248 頁・4620 円

急激に少子高齢化が進む韓国。高等教育界の中で特に地方大学は入学者確保の問題が深刻だ。1990 年から地域で活躍した高齢者も名誉学生として受け入れを手始めに、その後中高年者にも学び直しの機会を拡大した政策成立過程と具体的実例を検証する。

公正で質の高い教育に向けたICT活用
卯月由佳・露口健司・藤原文雄編著 A5・二五六頁・二九七〇円

学校音楽文化論
笹野恵理子・学校音楽文化研究会編著 A5・三六八頁・四九五〇円

学習する、教える、評定するためのタキソノミー
L・W・アンダーソン、D・R・クラスウォール編著 中西穂高他訳 A5・四八〇頁・六四九〇円

近代日本の教育博物館
高田麻美著 A5・二五六頁・五二八〇円

日本の大学と地域社会との相関システムの形成
稲永由紀著 A5・二四八頁・四九五〇円

大学職員の仕事経験の探究
大島英穂著 A5・二七二頁・四一八〇円

思考の世界は概念が支える
福田誠治著 A5・二六七頁・二七五〇円

世界の論争問題教育
トマス・ミスコ編著 渡部竜也他訳 A5・四二〇頁・五七二〇円

子ども・若者の居場所と人間形成
萩原建次郎著 A5・一六八頁・一九八〇円

中国独立学院制度の発足・普及・変貌

潘秋静著 A5・296 頁・5940 円

大学の大衆化・国際化が進行する中国。総合国立大学を母体とした新たな高等教育機関の独立学院が誕生した。本書は、独立学院のユニークな制度発足から現在までの多様な展開として、教育実践、教育効果、評価・課題を解明した日本で初刊行の労作！

中国高等　業教育の展開

張潔麗著 A5・264 頁・4950 円

中国の職業教育は国家に必要な人材育成として政府主導で進められた。産官学の要因が複雑に絡みながら発展してきた職業教育の実像を、政策過程や質的調査実際のカリキュラムや授業実践の綿密な分析を通して、制度・教育・文化の各側面から照射した画期的な総合的研究！

東信堂直接注文お問い合わせ　アマゾン　楽天ブックス　honto

東信堂
〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
HP http://www.toshindo-pub.com
☎ 03-3818-5521　FAX 03-3818-5514
✉ toshindo.onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@fsinet.or.jp（代表）

＊博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

目 次

ごあいさつ（第 27 回大会実行委員長 福井文威） ･････････････････ 2
大会日程 ･･･ 3
大会参加のご案内 ･･･ 4
発表者へのお願い ･･･ 7
司会者へのお願い ･･･ 9
会場へのアクセス ･･･ 11
第 27 回大会 対面会場 全体配置図（鎌倉女子大学） ･･････････････ 13
会場一覧 ･･･ 14
学会会場 教室配置図 （教室棟） ･･････････････････････････････ 15
会場別プログラム ･･･ 16
自由研究発表（一般発表）Ⅰ ･･････････････････････････････････ 18
自由研究発表（一般発表）Ⅱ ･･････････････････････････････････ 22
自由研究発表（一般発表）Ⅲ ･･････････････････････････････････ 25
自由研究発表（ポスター発表） ･････････････････････････････････ 28
課題研究 ･･･ 29
国際委員会主催企画 ランチミーティング ･･････････････････････････ 32
大会校企画 公開シンポジウム ･･････････････････････････････････ 34

ごあいさつ

この度、2024 年 5 月 25 日（土）・26 日（日）に日本高等教育学会第 27 回大会を鎌倉女子大学にて開催させて頂くことになりました。2022 年秋に大会校のお話を頂いて以来、大会実行委員会では、参加者の皆様の交流がより一層深まり、新たな知のネットワークが生まれるような学会大会を目指し、鋭意準備を進めて参りました。第 27 回大会の発表要旨集録をお届けします。

第 27 回大会では、従来の「自由研究発表（一般発表）」に加え、新たに「自由研究発表（ポスター発表）」の部会を設けることにいたしました。今回の大会では、19 部会 66 件の自由研究発表が予定されております。また、国際委員会主催による 2 つのランチミーティングや、2019 年以来、5 年ぶりとなります懇親会を開催します。これらの場を通じて、有意義な議論と新たな交流が生まれることを期待しております。

5 月 25 日に予定しております学会主催の 2 つの課題研究では、「研究費ファンディングの国際比較」、「学生と大学：ガバナンスへの参加をめぐる過去・現在・将来」として、高等教育や科学技術イノベーションにとって、国際的にも関心事の高い大変重要なテーマが議論されます。

5 月 26 日は、大会校企画として「教育の連続性を考える：初等中等教育と高等教育の接続」を公開シンポジウムとして開催します。高橋洋平先生、小原一仁先生、村上雅人先生をお招きし、川嶋太津夫先生をモデレータとするパネルディスカッションを予定しています。近年の初等中等教育改革と高等教育改革の動向を相互に理解し合いながら、今後の教育のあり方について幅広く考える機会となればと思います。課題研究と公開シンポジウムは、ウェビナーでオンライン配信も行う予定ですので必要に応じてご利用ください。

本大会は、会員のみならず、非会員の方も参加可能としています。大会が開催される本学の大船キャンパスは、JR 大船駅より徒歩 8 分の位置にあります。大船駅は、複数の路線が乗り入れるターミナル駅で、乗り換えなしで東京駅から約 45 分、横浜駅から約 15 分でアクセスできます。時間が許せば、少し電車にゆられ、鶴岡八幡宮、円覚寺、建長寺、長谷寺、鎌倉大仏、鎌倉文学館等のある歴史ある街の中で、研究談義や思索に耽り、有意義な時間をお過ごし頂くことも出来るかと思います。是非、多くの方のご参加をお待ちしております。

本大会が参加者の皆様の新しい発見やインスピレーションを得る場となることを願っています。5 月の学会大会で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

日本高等教育学会 第 27 回大会実行委員会
委員長 福井 文威

大会日程

5月25日・26日の（※）は、対面・オンライン併用のイベント（オンライン参加可能）
無印は、対面会場のみでのイベント

5月25日（土）

時間	内容	会場
9:15 ～	受 付	教室棟1階 ｺﾐｭﾆﾃｨ・ﾓｰﾙ
10:00 ～ 12:00	自由研究発表（一般発表）Ⅰ	教室棟3階 各教室
12:10 ～ 12:55	国際委員会主催企画 ランチミーティング1 「留学生・外国人研究者との交流」	教室棟3階 ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室C
	国際委員会主催企画 ランチミーティング2 「海外での調査や滞在に関する情報共有」	教室棟2階 ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室A
13:00 ～ 15:00	課題研究Ⅱ（※） 「研究費ファンディングの国際比較」	教室棟3階 大講義室 （サテライト教室： 教室棟3階 3-E教室）
15:15 ～ 17:15	課題研究Ⅰ（※） 「学生と大学：ガバナンスへの参加をめぐる過去・現在・将来」	教室棟3階 大講義室 （同時通訳ありのサテライト教室：教室棟3階 3-E教室）
17:30 ～ 19:30	懇親会	食堂棟1階 ｶﾝﾃｨｰﾝ

（12:05 ～ 12:45 課題研究Ⅰ打ち合わせ：教室棟3階 303教室）
（12:05 ～ 12:45 課題研究Ⅱ打ち合わせ：教室棟3階 304教室）

5月26日（日）

時間	内容	会場
8:30 ～	受 付	教室棟1階 ｺﾐｭﾆﾃｨ・ﾓｰﾙ
9:00 ～ 11:00	自由研究発表（一般発表）Ⅱ	教室棟3階 各教室
11:10 ～ 12:30	自由研究発表（一般発表）Ⅲ	
11:30 ～ 12:50	自由研究発表（ポスター発表）	教室棟1階 ｺﾐｭﾆﾃｨ・ﾓｰﾙ
13:30 ～ 14:00	総会	教室棟3階 大講義室
14:15 ～ 16:45	公開シンポジウム（※） 「教育の連続性を考える ―初等中等教育と高等教育の接続― 」	教室棟3階 大講義室 （サテライト教室：教室棟3階 3-E教室）

（12:35 ～ 13:15 総会打ち合わせ：教室棟3階 304教室）
（12:15 ～ 14:00 公開シンポジウム打ち合わせ：事務管理棟 松本記念室）

大会参加のご案内

＜大会形式＞

鎌倉女子大学大船キャンパスを会場とした対面実施を前提としつつ、一部オンラインを併用するハイブリッド形式で開催します。

会場　鎌倉女子大学大船キャンパス

要旨集録、課題研究と大会校企画シンポジウムのウェビナーURLなどの情報は、日本高等教育学会が利用しているガリレオ社のSOLTIシステムにおけるマイページに順次掲載をします。当ページは、日本高等教育学会が利用しているガリレオ社のSOLTIシステムを利用しており、日本高等教育学会ウェブサイト「日本高等教育学会第27回大会 参加者用ページ」（https://service.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/JAHER）からアクセスいただけます。

＜実施方法＞

- 第27回大会では、「自由研究発表（一般発表）」の他に、「自由研究発表（ポスター発表）」の区分を設けます。また、事情により会場参加ができない発表者に対して、自由研究発表（ポスター発表）に限り、遠隔地からの発表の機会を用意します。詳細は、「【別添資料】第27回大会における自由研究発表（一般発表・ポスター発表）に関する注意事項等について」をご確認ください。
- 課題研究は、対面会場での実施を基本としつつ、ウェビナー方式によるオンライン同時配信を予定しています。
- 大会校企画は、公開企画として、対面会場での実施とともに、ウェビナー方式によるオンライン同時配信を予定しています。

イベント区分	対面参加	オンライン参加
自由研究発表（一般発表・ポスター発表）	○	× （ポスター発表：遠隔地からの発表者のみオンライン参加可）
国際委員会主催企画 ランチミーティング	○	×
課題研究	○	○
大会校企画 公開シンポジウム	○	○

＜大会に関する情報提供・ウェブサイト＞

大会に関する情報は、日本高等教育学会のウェブサイト「大会案内」をご参照ください。
https://jaher-web.jp/conference/27/

＜大会参加費＞

- 大会参加費： 5,000 円（会員・臨時会員／対面参加・オンライン参加 共通）
  懇 親 会 費： 5,000円（事前申込制）
  *会員でない方（非会員）も臨時会員として、上記と同じ金額で参加できます。
  臨時会員の方の参加手続きも会員と同様に下記の方法となります。
- 大会参加費の支払いは原則、「大会参加申込システム」上でのクレジット決済となります。クレジット決裁ができない方は、大会参加費の支払い方法をご案内します。大会実行委員会までメールでお知らせください。
- オンライン参加は、要旨集録のダウンロード、課題研究、公開シンポジウムへの参加のみ可能となります。
- 決済完了後の返金はいたしません。
- 領収書は「大会参加申込システム」上から PDF ファイルで取得できます。（「大会参加費」と「懇親会費」とでPDFファイルが分かれています）
- 学会大会当日の大会会場での現金による参加費の受付は行いません。
- 大会参加費5,000円について、会員は不課税、臨時会員は税込です。また、懇親会費5,000円は参加種別を問わず税込です。

＜大会参加手続き（会員・非会員ともに同じ方法です）＞

- 日本高等教育学会ウェブサイト(https://jaher-web.jp)の「大会参加申込システム」に従い必要事項を入力し、大会参加登録と大会参加費のお支払い手続きを行ってください。
- 参加申し込み・参加費支払いの期間は、2024年 2月 1日(木)～5月15日(水) 18:00 です(厳守)。
- 大会参加の申し込み・参加費支払いが完了すると、ご指定のメールアドレスに受領メールを送信します。メールが受信できていない場合、手続きが完了していない可能性があります。必ずご確認ください。なお、クレジット決済以外による参加費のお支払いの場合は、ご入金確認に2,3営業日程度を要します。
- 大会参加費のお支払いが完了した方は、対面会場での大会参加とともに、要旨集録のダウンロードと課題研究及び公開シンポジウムへのアクセスが可能となります。なお、自由研究発表（一般発表・ポスター発表）の傍聴は対面参加者のみ可能であり、オンラインでの配信や録画映像の配信は行いませんので予めご了承の上、参加申し込みをしてください。
- 本学会の会員ではない方（非会員）も、臨時会員として大会に参加することができます。

＜公開シンポジウムのみの参加の場合＞

- 公開シンポジウムは、オンラインでの視聴に限り、無料で一般にも公開（ウェビナー配信）します。
- 公開シンポジウムをオンライン視聴する場合は、「公開シンポジウムオンライン視聴申込サイト(https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_7g2JGKsDSGSvGzEXq7hkYA)」から事前に参加登録を行なってください。「公開シンポジウムオンライン視聴」の申し込み期限は2024年5月24日（金）18時00分です。

＜対面会場参加の留意点＞

- 宿泊は各自でご手配下さい。
- 対面会場内の食堂は11：30～14：00に利用できます（※支払いは交通系電子マネーのみ可能で、現金での支払いはできません。また、対面会場内はチャージができません）。または、近隣の飲食店やコンビニエンスストア等をご利用ください。

＜対面会場のご案内＞

・受付：教室棟1階　コミュニティ・モール
　　5月25日（土）09:15-17:30　　5月26日（日）08:30-17:00
・クローク：教室棟1階　コミュニティ・モール（受付会場横）
　　5月25日（土）09:15-17:30　　5月26日（日）08:30-17:00
・会員控室：教室棟3階　305教室・306教室
・大会実行委員会控室：教室棟3階　307教室
・書籍等の展示・販売：教室棟1階　コミュニティ・モール

＜無線LAN＞

・接続方法については会場にてご案内します。

＜PC用の電源コンセント＞

・各会場に備え付けられている電源コンセントには数に限りがあり、充電設備が十分にございません。各自PCの充電を十分にするなど、予めご準備のほどお願い致します。

＜その他＞

・学会年会費：大会会場では、学会年会費の納入はできません。
・呼び出し：対面会場での呼び出しは行いません。
・写真・動画撮影の注意：対面参加・オンライン参加ともに、発表者の許可なく写真撮影やビデオ撮影（録画）、録音はできません。
・クールビズ期間のため、環境への配慮の点からも、軽装での参加を積極的にご検討ください。
・発表のキャンセル、その他、実施要綱に違反する事案が生じた場合には、大会実行委員会は理事会に報告するとともに、大会終了後に学会ニュースレターを通じて、そのことを公表する場合があります。

＜緊急連絡先＞

発表者・司会者共に、緊急に連絡が必要な場合（当日欠席の場合など）は、できるだけ早く、大会実行委員会にE-mailにてお知らせください。

第27回大会実行委員会　E-mail：g005jaher-taikai@ml.gakkai.ne.jp

発表者へのお願い

＜自由研究発表（一般発表）＞

・発表時間及び質疑応答

発表時間は次のように設定しています。

発表人数	発表時間	質疑応答時間
1人	15分	5分
2人	30分	10分
3人以上	40分	10分

以下の要領で、時間の目安をお知らせします。

【1鈴】発表終了5分前

【2鈴】発表終了時

【3鈴】質疑応答終了時

・発表用機械器具

- 発表で使用するPC等の機器は各自ご持参ください。なお、会場には各教室にPC（Windows 10、PowerPoint 2016または2019）を1台配置しておりますので、そちらをご利用いただくこともできます。
- 会場には、プロジェクタ（HDMI対応）が備え付けられています。発表部会開始前に動作確認をしてください。なお、Mac等を使用する場合は、上記のケーブルに接続するためのアダプタ等を各自お持ちください。

・配付資料

- 大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は、各自で必要な部数をご用意いただくか、または、QRコード等を通じて電子データを参加者へご提供ください。

＜自由研究発表（ポスター発表：対面発表）＞

・ポスターの掲示

- ポスター発表者は、第2日目の8時45分～11時30分の時間帯に教室棟1階コミュニティモールに設置された掲示板にポスターの掲示を完了し、当日の17時00分までに撤去してください。
- ポスターの展示場所は、教室棟1階コミュニティモールに発表番号を振った掲示板を設置しています。大会プログラムに掲載されたご自身のポスター発表番号と同じ番号の掲示板に掲示してください。
- ポスターを掲示する掲示板の大きさは、縦115cm×横175cmです。この大きさを上限としてポスターご準備してください。A0版を貼ることもできます。

- ポスター貼付用のピンや画鋲は、会場にて用意しております。

・発表時間及び質疑応答

- ポスター発表の時間は、第２日目の 11 時 30 分から 12 時 50 分までの 80 分間です。この間は、常にポスターの前に留まり、会場来場者への説明や質疑に応答してください。
- 司会者は配置しません。

・配付資料

- 大会実行委員会によるコピーサービスは行いません。自由研究発表用の配付資料等は、各自で必要な部数をご用意いただくか、または、QRコード等を通じて電子データを参加者へご提供ください。

＜自由研究発表（ポスター発表：遠隔地からの発表）＞

・ポスター事前提出

- 掲示用のポスターの現物を５月 15 日（必着）までに、以下の住所に郵送してください。
  〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船六丁目１番３号
  鎌倉女子大学内 日本高等教育学会第 27 回大会実行委員会 宛

・Zoom の入室時間とミーティング URL

- 第２日目の 11 時 20 分に指定された Zoom ミーティング URL へ入室してください。
  ※ミーティング URL は５月 21 日にメールにて個別にご案内します。

・発表時間及び質疑応答

- 第２日目の 11 時 30 分から 12 時 50 分までの 80 分間です。この間は、常に Zoom 画面上（カメラは常にオン）に留まり、研究内容の説明と質疑に応じてください。
- 司会者は配置しません。
- 発表終了時に Zoom ミーティングから退出してください。

司会者へのお願い

＜部会の時間管理について＞

・各発表者の持ち時間は下記のようになっております。個々の発表の予定時間を超過しないように時間管理をお願いします。

発表人数	発表時間	質疑応答時間	全ての持ち時間
1人	15分	5分	20分
2人	30分	10分	40分
3人以上	40分	10分	50分

・発表者が来ない場合は、その発表は発表取消となります。遅れて来た場合には、該当者の発表時間内であれば発表をお認めいただいても構いません。ただし、発表時間の延長は認められません。

・発表が取りやめになった場合は、時間の繰り上げは行わず、プログラムの時間にあわせて次の発表者の発表に進めてください。

＜総括討論＞

・各部会の最後に総括討論の時間を設けておりますが、その配分時間はそれぞれの部会によって異なっています（P. 17 以降の自由研究発表　部会情報をご参照ください）。

・この時間の活用方法は司会者に一任しておりますので、臨機応変に対応していただきますようお願いします。

＜発表について＞

・発表で使用するPC等の機器は、発表者が各自で持参することとなっていますが、教室に配置しているPC1台（ Windows 10、PowerPoint 2016または2019 ）を利用することも可能です。

・部会開始前に機器の接続をテストすることをしていますが、司会の方からもこのことを促していただけますと幸いです。

・配付資料は、教室後方に設置します「配付資料置き場」に置くようにしています。

＜会場スタッフ＞

・各会場には、サポートスタッフを配置しております。

・会場スタッフは、部会運営の補助として、タイムキーパーやマイク運び（マイク設備の無い301教室・302教室を除く）を担当します。

・会場スタッフは、発表時には、タイムキーパーとして、卓上ベルを用いて時間の目安をお知らせします。

【1鈴】発表終了5分前　　【2鈴】発表終了時　　【3鈴】質疑応答終了時

・会場スタッフは、「総括討論」の時間には、マイク運び（マイク設備の無い301教室・302教室を除く）の役割を担当します。

・その他、司会者の先生から会場スタッフへ指示がありましたら、適宜お伝えください。

会場へのアクセス

会場：鎌倉女子大学　大船キャンパス

住所：〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船６丁目１番３号

最寄駅：大船駅下車、東口または笠間口から徒歩８分

路線図

主要駅から鎌倉女子大学（大船キャンパス）最寄りの大船駅までの路線案内です。

大船駅からのアクセス（徒歩８分）

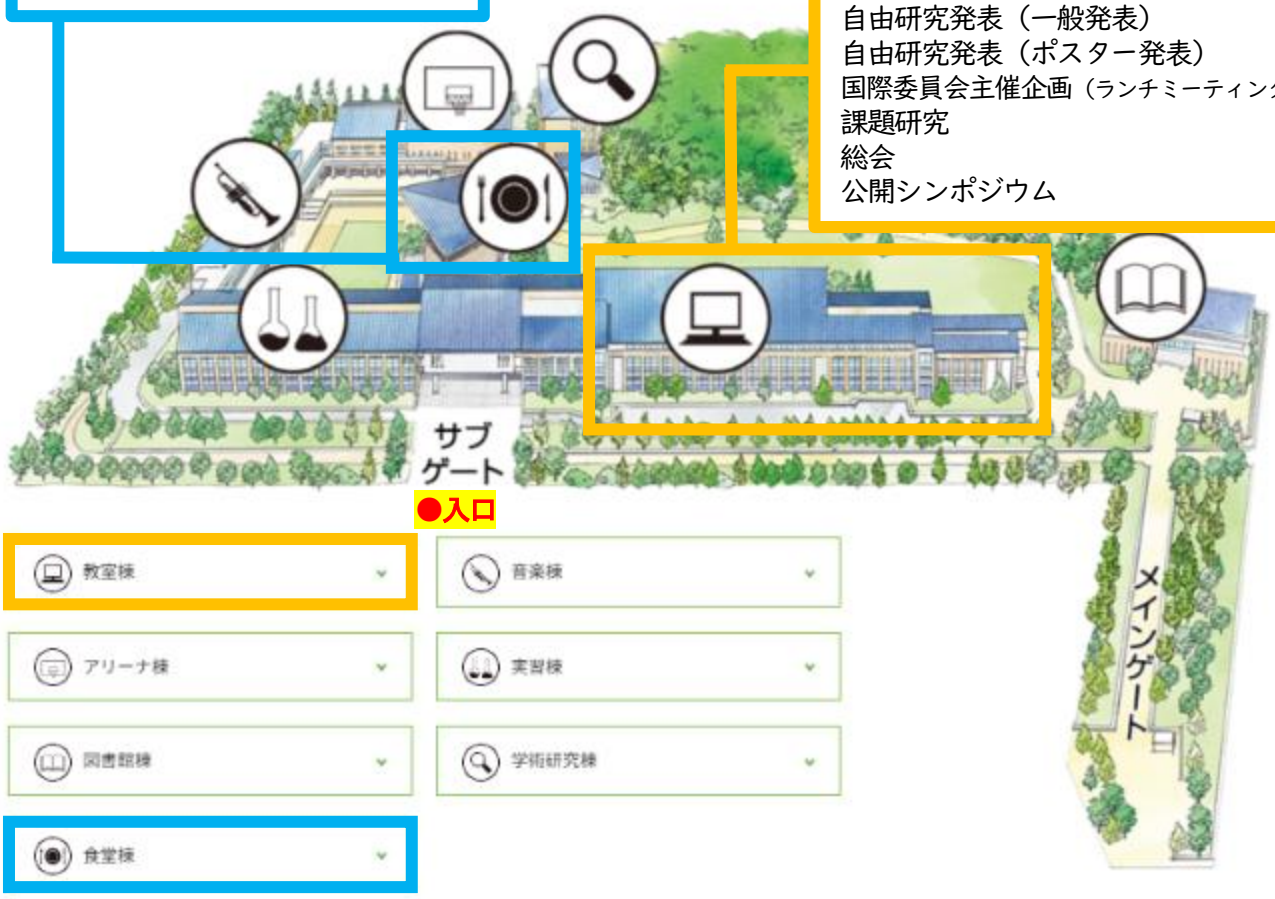
※会場へはイトーヨーカドー側の入口からご入構ください。
※ご来場は、公共交通機関をご利用ください。
　特別なご事情がある場合には、車でのご来場も可能です。実行委員会に事前にご連絡ください。

第 27 回大会 対面会場 全体配置図
（鎌倉女子大学）

＜食堂（カンティーン）＞
営業時間：11：30～14：00

懇親会（事前申込制）：
　第１日目　17：30～19：30

＜学会会場＞
受付・クローク
自由研究発表（一般発表）
自由研究発表（ポスター発表）
国際委員会主催企画（ランチミーティング）
課題研究
総会
公開シンポジウム



★食堂メニューのご案内★

5/25（土）　油淋鶏プレート
　　五目あんかけ焼きそば

5/26（日）　ビーフストロガノフプレート
　　魚介濃厚つけめん

各500円（税込）

会場一覧

5月25日（土）

受付：9:15～17:30　教室棟1階 ｺﾐｭﾆﾃｨ・ﾓｰﾙ

10:00～12:00

自由研究発表（一般発表）Ⅰ

Ⅰ－1 部会	高等教育政策	（教室棟3階 3-A教室）
Ⅰ－2 部会	教養教育・一般教育	（教室棟3階 3-B教室）
Ⅰ－3 部会	大学院と研究者養成	（教室棟3階 3-C教室）
Ⅰ－4 部会	IR（Institutional Research）	（教室棟3階 3-D教室）
Ⅰ－5 部会	大学と学生	（教室棟3階 301教室）
Ⅰ－6 部会	大学と地域	（教室棟3階 302教室）

12:10～12:55

国際委員会主催企画 ランチミーティング

ランチミーティング1

留学生・外国人研究者との交流

（教室棟3階 ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室C）

ランチミーティング2

海外での調査や滞在に関する情報共有

（教室棟2階 ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室A）

13:00～15:00

課題研究Ⅱ　（会場・オンライン併用）

研究費ファンディングの国際比較

本会場　（教室棟3階 大講義室）

サテライト会場　（教室棟3階 3-E教室）

15:15～17:15

課題研究Ⅰ　（会場・オンライン併用）

学生と大学：ガバナンスへの参加をめぐる過去・現在・将来

本会場　（教室棟3階 大講義室）

サテライト会場　同時通訳　（教室棟3階 3-E教室）

17:30～19:30

懇親会（食堂棟1階 カンティーン）

5月26日（日）

受付：8:30～17:00　教室棟1階 ｺﾐｭﾆﾃｨ・ﾓｰﾙ

9:00～11:00

自由研究発表（一般発表）Ⅱ

Ⅱ－1 部会	学位制度と専門職養成	（教室棟3階 3-A教室）
Ⅱ－2 部会	大学教授職の展望	（教室棟3階 3-B教室）
Ⅱ－3 部会	国立大学の改革	（教室棟3階 3-C教室）
Ⅱ－4 部会	国際化と質保証	（教室棟3階 3-D教室）
Ⅱ－5 部会	私立大学のガバナンス	（教室棟3階 301教室）
Ⅱ－6 部会	大学経営人材	（教室棟3階 302教室）

11:10～12:30

自由研究発表（一般発表）Ⅲ

Ⅲ－1 部会	学修成果	（教室棟3階 3-A教室）
Ⅲ－2 部会	学生調査	（教室棟3階 3-B教室）
Ⅲ－3 部会	大学と財務	（教室棟3階 3-C教室）
Ⅲ－4 部会	大学教育	（教室棟3階 3-D教室）
Ⅲ－5 部会	大学の理念と経営	（教室棟3階 301教室）
Ⅲ－6 部会	奨学金	（教室棟3階 302教室）

11:30～12:50

自由研究発表（ポスター発表）

（教室棟1階 コミュニティ・モール）

13:30～14:00

総会（教室棟3階 大講義室）

14:15～16:45

公開シンポジウム（会場・オンライン併用）

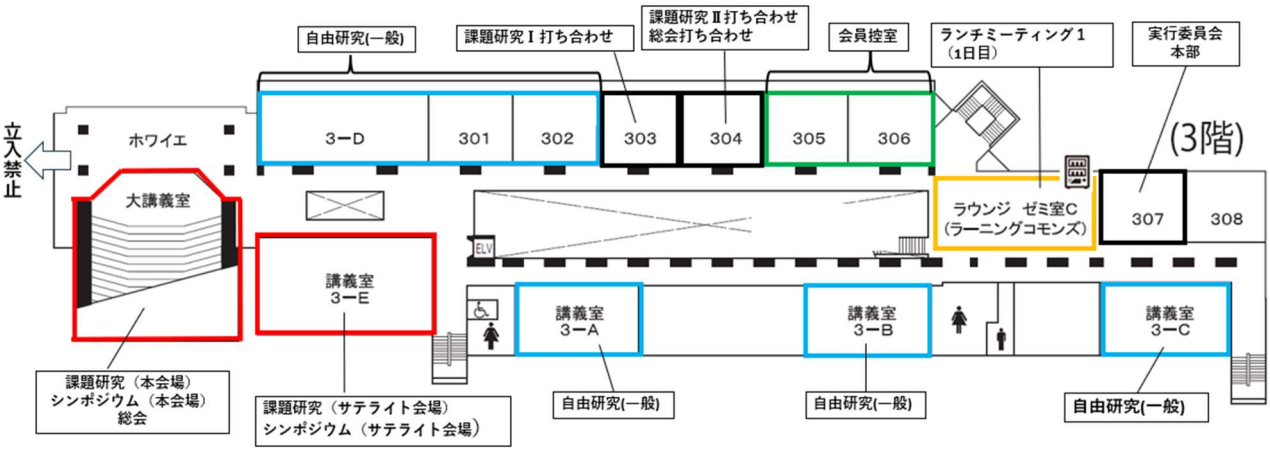
教育の連続性を考える

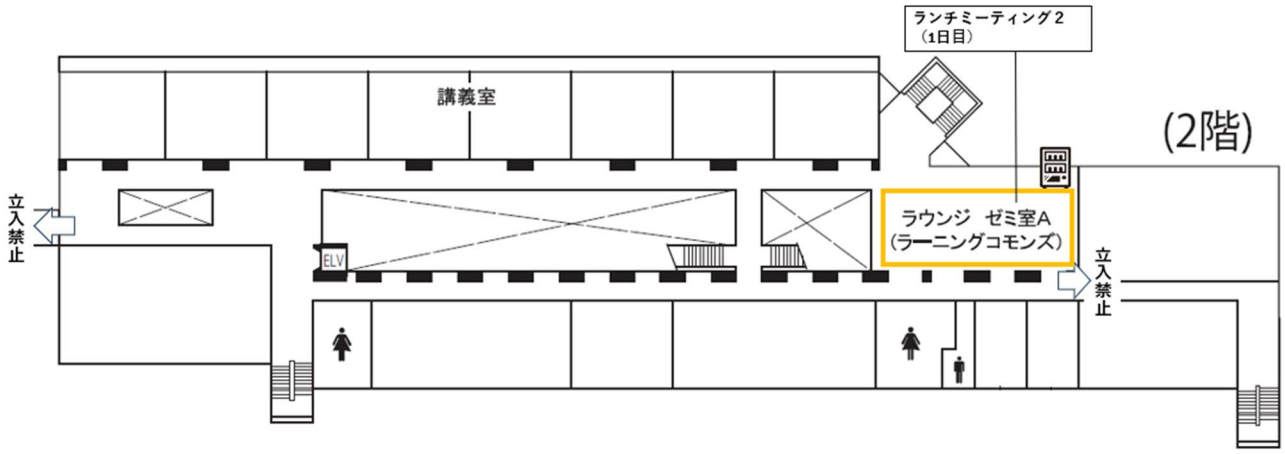
―初等中等教育と高等教育の連続性―

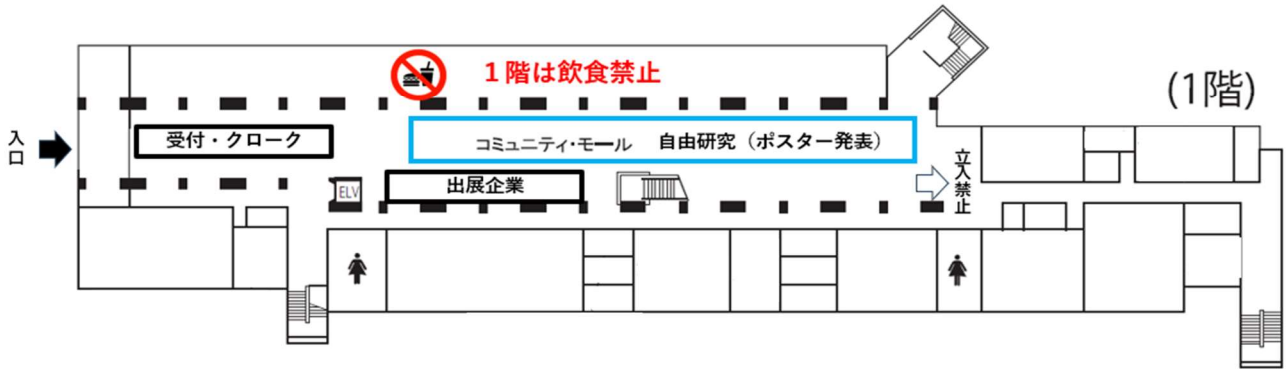
本会場　（教室棟3階 大講義室）

サテライト会場　（教室棟3階 3-E教室）

学会会場 教室配置図 （教室棟）







コミュニティ・モール

ラウンジ ゼミ室
(ラーニングコモンズ)

大講義室（300 人収容）

普通教室（60 人収容）

大教室（100 人・150 人収容）

会場別プログラム

	5月25日（土）　大会第1日目											
	3-A	3-B	3-C	3-D	301	302	ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室C	ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室A	3-E	大講義室	ｺﾐｭﾆﾃｨ･ﾓｰﾙ	ｶﾝﾃｨｰﾝ
9:00												
10:00	自由研究発表 一般発表 Ⅰ-1部会 高等教育政策 （10：00-12：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅰ-2部会 教養教育・一般教育 （10：00-12：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅰ-3部会 大学院と研究者養成 （10：00-12：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅰ-4部会 IR (Institutional Reserch) （10：00-12：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅰ-5部会 大学と学生 （10：00-12：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅰ-6部会 大学と地域 （10：00-12：00）						
11:00												
12:00							ランチミーティング1 （12：10-12：55）	ランチミーティング2 （12：10-12：55）				
13:00									課題研究Ⅱ サテライト会場 (13:00-15:00) ※	課題研究Ⅱ 本会場 (13:00-15:00) ※		
14:00												
15:00									課題研究Ⅰ サテライト会場 ＜同時通訳＞ (15:15-17:15) ※	課題研究Ⅰ 本会場 (15:15-17:15) ※		
16:00												
17:00												
18:00												懇親会 (17:30-19:30)
19:00												

	5月26日（日）　大会第2日目											
	3-A	3-B	3-C	3-D	301	302	ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室C	ﾗｳﾝｼﾞｾﾞﾐ室A	3-E	大講義室	ｺﾐｭﾆﾃｨ･ﾓｰﾙ	ｶﾝﾃｨｰﾝ
9:00	自由研究発表 一般発表 Ⅱ-1部会 学位制度と専門職養成 （9：00-11：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅱ-2部会 大学教授職の展望 （9：00-11：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅱ-3部会 国立大学の改革 （9：00-11：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅱ-4部会 国際化と質保証 （9：00-11：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅱ-5部会 私立大学のガバナンス （9：00-11：00）	自由研究発表 一般発表 Ⅱ-6部会 大学経営人材 （9：00-11：00）						
10:00												
11:00	自由研究発表 一般発表 Ⅲ-1部会 学修成果 （11：10-12：30）	自由研究発表 一般発表 Ⅲ-2部会 学生調査 （11：10-12：30）	自由研究発表 一般発表 Ⅲ-3部会 大学と財務 （11：10-12：30）	自由研究発表 一般発表 Ⅲ-4部会 大学教育 （11：10-12：30）	自由研究発表 一般発表 Ⅲ-5部会 大学の理念と経営 （11：10-12：30）	自由研究発表 一般発表 Ⅲ-6部会 奨学金 （11：10-12：30）					自由研究発表 ポスター発表 (11:30-12:50)	
12:00												
13:00										総会 (13:30-14:00)		
14:00									公開 シンポジウム サテライト会場 (14:15-16:45) ※	公開 シンポジウム 本会場 (14:15-16:45) ※		
15:00												
16:00												

※　対面・オンライン併用のイベント（オンライン参加可能）

自由研究発表

（発表タイトルは申込内容、発表者の所属は 2024 年 2 月 29 日時点で学会に登録されている内容です）

自由研究発表（一般発表）Ⅰ　5月25日（土）　10:00～12:00

Ⅰ－1 部会 教室棟3階 3-A 教室

高等教育政策

司会：丸山和昭（名古屋大学）

10:00～10:20　1960～70年代大学・高等教育機関の目的・性格に関する議論の検討
〇戸村理（東北大学）

10:20～10:40　カリフォルニア州高等教育の現在
－新マスタープラン策定に向けた動向を中心に
〇中世古貴彦（九州産業大学）

10:40～11:30　高等教育改革の政治経済学
－なぜ日本の改革は成功しないのか
〇田中秀明（明治大学）　〇大森不二雄（東北大学）　〇杉本和弘（東北大学）
〇大場淳（広島大学）

11:30～12:00　総括討論

Ⅰ－2 部会 教室棟3階 3-B 教室

教養教育・一般教育

司会: 杉谷祐美子（青山学院大学）

10:00～10:20　東京大学学部前期課程教育における1993年カリキュラム改革
－教養教育に対する学生・教員の言説に着目して
〇高本尽（東京大学）

10:20～10:40　韓国の大学における教養・基礎教育の現況と課題
〇渡辺達雄（金沢大学）

10:40～11:20　米国の学士課程教育における一般教育の意義と方策
－スタンフォード大学の初年次新要件に注目して
〇中島夏子（東北工業大学）　〇福留東土（東京大学）

11:20～12:00　総括討論

Ⅰ－3 部会 教室棟 3 階 3-C 教室

大学院と研究者養成

司会：佐藤万知（京都大学）

10:00～10:20　国際学生調査から見えた大学院生経験の経年変化
－X 国立大学の事例
〇陳麗蘭（大阪大学）　矢田尚也（大阪大学：非会員）　中口悦史（大阪大学：非会員）
川嶋太津夫（大阪大学）

10:20～10:40　人文・社会学系学生の大学院進学に作用する要因
－量・質混合分析による実証分析から
松塚ゆかり（一橋大学）　〇孟碩洋（一橋大学）

10:40～11:00　教育学分野における博士論文審査の変化とその影響についての質的研究
－教員・学生へのインタビュー調査を通して
〇岩渕和祥（東京大学）

11:00～11:20　ポストドクターのキャリアと課題
－2021 年度全国調査の結果から
〇川村真理（文部科学省）

11:20～12:00　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅰ　5月25日（土）　10:00～12:00

Ⅰ－4 部会 教室棟3階 3-D 教室

IR（Institutional Research）

司会：村澤昌崇（広島大学）

10:00～10:20　役に立つ教学IR
－道具的利用と概念的利用の対比を通して
〇西村君平（東北大学）　原田健太郎（島根大学）　呉書雅（岩手県立大学）
渡部芳栄（岩手県立大学）

10:20～10:40　卒業後追跡調査のサンプル脱落
－人文社会系学部の卒業生を対象とした調査を事例として
〇二宮祐（群馬大学）

10:40～11:00　大学IRコンサルテーション事業における学生調査のマネジメント支援
〇松本清（東京工業大学）　高松邦彦（東京工業大学）　森雅生（東京工業大学）

11:00～11:20　ChatGPTの進化と高等教育におけるその影響
－Eduinformaticsを通じた持続可能なIR実践への応用
〇高松邦彦（東京工業大学）　松本清（東京工業大学）　野田育宏（神戸常盤大学：非会員）
酒井智行（Keiアドバンス：非会員）　村上勝彦（東京大学：非会員）
森雅生（東京工業大学）

11:20～11:40　IRにおける教務概念のオントロジー化
－情報科学からのアプローチ
〇森雅生（東京工業大学）　今井匠太朗（東京工業大学：非会員）　稲倉恒法（東京工業大学）
松本清（東京工業大学）　高松邦彦（東京工業大学）

11:40～12:00　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅰ　5月25日（土）　10:00～12:00

Ⅰ－5 部会 教室棟3階 301 教室

大学と学生

司会：大多和直樹（お茶の水女子大学）

10:00～10:20　昭和初期における学生自治権獲得運動の展開
－慶應義塾を事例として
〇長谷坂大樹（東京大学）

10:20～10:40　大学における「自由な校風」とその指標可視化
－校風意識調査と大学データ分析をふまえた多角的考察
〇大川一毅（岩手大学）　大野賢一（鳥取大学）　嶌田敏行（大学改革支援・学位授与機構）

10:40～11:20　米国州立大学の学寮プログラムにおける統合とアセスメント
－LLC（Living Learning Community）における継続的な事例分析に基づいて
〇安部有紀子（名古屋大学）　〇蝶慎一（香川大学）

11:20～12:00　総括討論

Ⅰ－6 部会 教室棟3階 302 教室

大学と地域

司会：稲永由紀（筑波大学）

10:00～10:20　地方活性化に向けた大学政策の転換
－韓国を事例に
〇塚田亜弥子（ソウル大学）

10:20～10:40　高等教育と地域社会との連携媒体としての大学コンソーシアム
－全国の大学コンソーシアムへのアンケート調査をもとに
〇柴恭史（桃山学院教育大学）

10:40～11:00　地方の県における人材養成の国公私立大学間の機能分担
〇山崎博敏（広島大学）

11:00～11:20　21世紀高等教育の現代的課題と方向性
－「社会と繋がる大学」へのパラダイム転換
〇船守美穂（国立情報学研究所）

11:20～12:00　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅱ　5月26日（日）　9:00～11:00

II － 1 部会 教室棟3階 3-A 教室

学位制度と専門職養成

司会：前田早苗（千葉大学）

09:00～09:20　学術団体による専門医資格の制定過程に関する研究
－基本領域学会における資格認定制の導入経緯に着目して
〇丸山和昭（名古屋大学）

09:20～09:40　専門分野別統計における「その他」の含意
－「学科系統分類表」の歴史と特異性
〇串本剛（東北大学）

09:40～10:30　「新しい学士への途」30年の意義と課題
－大学改革支援・学位授与機構「学士取得者フォローアップ調査2022」結果の分析から
〇齋藤崇徳（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）
〇吉川裕美子（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）
〇李敏（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）　〇濱中義隆（国立教育政策研究所）

10:30～11:00　総括討論

II － 2 部会 教室棟3階 3-B 教室

大学教授職の展望

司会：川村真理（文部科学省）

~~09:00～09:20　オーストラリアの教育専任教員とEducational Developmentの関係に関する考察~~
~~－A大学における教育専任教員と支援の取り組みに関するナラティブに着目して~~
~~〇佐藤万知（京都大学）~~　（発表取り下げ）

09:20～09:40　大学運営業務に関わる層における、運営業務による研究への制約意識についての試行的な考察
－FTE調査と運営層へのインタビュー調査を通じて
〇山本弦（文部科学省）

09:40～10:30　大学教員の社会貢献活動に関する研究
－社会貢献活動が活発な大学教員の特徴
〇有本章（広島大学）　〇大膳司（広島大学）　〇黄福涛（広島大学）
KimYangson（広島大学）　李昕（広島大学）

10:30～11:00　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅱ　5月26日（日）　9:00～11:00

II － 3 部会 教室棟3階 3-C 教室

国立大学の改革

司会：水田健輔（大学改革支援・学位授与機構）

09:00～09:20　国立大学の中期目標・中期計画に関する分析
〇原田健太郎（島根大学）　島一則（東北大学）

09:20～09:40　法人化後の国立大学における卒業生ネットワークへの期待と結果
－中期計画実績報告書の記述を題材に
〇古畑翼（筑波大学）

09:40～10:00　シニア研究者／若手研究者の「大学改革」に言及した意見記事の分析
－2000年代における雑誌『生化学』『蛋白質核酸酵素』を事例として
〇久保京子（東京大学）

10:00～10:20　地方国立大学間統合・再編の議論に関する考察
－韓国国立M大学の事例を中心に
〇鄭漢模（北海道大学）

10:20～11:00　総括討論

II － 4 部会 教室棟3階 3-D 教室

国際化と質保証

司会：米澤彰純（東北大学）

09:00～09:20　外国人若手研究者の能力開発に資する機会と制約
－個人志向アプローチと混合研究法を通して
〇櫻井勇介（広島大学）　程文娟（広島大学：非会員）　猿田静木（広島大学：非会員）

09:20～09:40　高等教育の分野別質保証に関する再考
－英国の学外試験委員制度と日本の視学委員制度に着目して
〇林透（金沢大学）

09:40～10:00　欧州におけるメタ評価実施の仕組み
－北欧諸国認証評価機関のENQA、EQARのメタ評価受審を例として
〇堀井祐介（大阪大学）

10:00～10:20　インドネシア高等教育における分野別質保証に関する考察
－グローバル化への対応に焦点を当てて
〇和氣太司（公益財団法人 医学教育振興財団）

10:20～11:00　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅱ　5 月 26 日（日）　9:00～11:00

II － 5 部会 教室棟 3 階 301 教室

私立大学のガバナンス

司会：戸村理（東北大学）

09:00～09:20　私立大学経営における理事会を含む実質的な決定機関に関する一考察
〇福山敦（茨城キリスト教大学）

09:20～09:40　2023 年私立学校法改正で何が変わるか
－意思決定機関の複数化などにより内部関係が複雑化
〇小林武夫（(学）産業能率大学）

09:40～10:20　高等教育制度の多様化による設置審査の動向分析
－私立大学における認可時の留意事項の分析を中心として
濱名篤（関西国際大学）　合田隆史（関西国際大学）　塚原修一（関西国際大学）
〇西田亜希子（関西国際大学）　〇我妻鉄也（千葉大学）

10:20～11:00　総括討論

II － 6 部会 教室棟 3 階 302 教室

大学経営人材

司会：大場淳（広島大学）

09:00～09:20　なぜ大学職員の組織変革行動は起きにくいのか
－促進要因と抑制要因の観点から
〇堀川優弥（国立大学法人東京大学）

09:20～09:40　どのような大学職員が非ルーティン的業務を遂行しているのか？
〇木村弘志（東京大学）

09:40～10:00　学長はいかに自身の補佐体制を構築するのか
－国立大学学長インタビュー調査からの検討
〇鈴木拓人（筑波技術大学）

10:00～10:20　大学マネジメント人材養成の課題
〇加藤毅（筑波大学）

10:20～11:00　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅲ　5 月 26 日（日）　11:10～12:30

III － 1 部会 教室棟 3 階 3-A 教室

学修成果

司会：木村拓也（九州大学）

11:10～11:30　人文科学系・社会科学系学士課程教育における学習経験と学習成果の比較
－3 つの全国卒業生調査の結果から
〇篠田雅人（早稲田大学）

11:30～11:50　学生時代の経験と社会の関連に関する実証的研究
〇真鍋亮（愛媛大学）

11:50～12:10　SOC（sense of coherence）に大学教育経験が及ぼす効果に関する実証的研究
〇島一則（東北大学）

12:10～12:30　総括討論

III － 2 部会 教室棟 3 階 3-B 教室

学生調査

司会：小方直幸（香川大学）

11:10～11:30　中国における「全国大学生調査」の展開・インパクトと課題
－清華大学 CCSS 調査を中心に
〇劉文君（東洋大学）

11:30～11:50　米英豪３カ国における全国学生調査の研究
－調査項目と指標を中心に
〇相原総一郎（芝浦工業大学）

11:50～12:10　国際比較で日本の大卒者の資質と日本の教育の問題点を考える
－国際成人力調査のデータを用いた定量的な分析結果の報告
〇廣田英樹（文部科学省 国立教育政策研究所）

12:10～12:30　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅲ　5 月 26 日（日）　11:10～12:30

III － 3 部会 教室棟 3 階 3-C 教室

大学と財務

司会：吉田香奈（広島大学）

11:10～11:30　国立大学法人運営費交付金における業績連動配分の実態と検証
－基幹経費の変動と大学の特性・費用構造に着目して
〇宮錦三樹（中央大学）

11:30～11:50　公立大学とその設立団体における現状と課題
－2023 年度質問紙調査結果の報告と考察
〇水田健輔（大学改革支援・学位授与機構）

11:50～12:10　私学事業団に何を期待するのか
－貸付事業の視点から
〇川崎成一（東京大学大学院教育学研究科）

12:10～12:30　総括討論

III － 4 部会 教室棟 3 階 3-D 教室

大学教育

司会：立石慎治（筑波大学）

11:10～11:30　高校・大学における探究的な学びとその連続性
－附属校出身者インタビューによる検討
〇武藤浩子（早稲田大学）　沈雨香（早稲田大学：非会員）　木村康彦（千葉大学：非会員）
山本桃子（東京国立博物館：非会員）　藤本啓寛（早稲田大学：非会員）
濱中淳子（早稲田大学）　吉田文（早稲田大学）

11:30～11:50　能力形成主義大学教育を問い直す
－「ここかしこ型アクティブ・ラーニング」の背景にあるもの
〇大多和直樹（お茶の水女子大学）

11:50～12:10　オンデマンド教育における学習内容の適応性と個性化学習支援に関する考察
〇陳健（サイバー大学）　池田大樹（サイバー大学：非会員）

12:10～12:30　総括討論

自由研究発表（一般発表）Ⅲ　5 月 26 日（日）　11:10～12:30

III － 5 部会 教室棟 3 階 301 教室

大学の理念と経営

司会：沖清豪（早稲田大学）

11:10～11:30　日本における女子大学の成立過程
－新制大学創設前後の津田塾大学の事例から
〇山崎衣知子（東京大学）

11:30～11:50　学部・学科の改組転換による入学定員充足率の向上効果と要因分析
〇安田傑（大阪大谷大学・准教授/桜美林大学大学院・院生）

11:50～12:10　短期大学卒業後の教育機会としての短期大学別科の現状と課題
〇川並弘順（早稲田大学大学院）

12:10～12:30　総括討論

III － 6 部会 教室棟 3 階 302 教室

奨学金

司会：白川優治（千葉大学）

11:10～11:30　奨学金の認識と利用に関する考察
－全国若年者調査より
〇王帥（東京大学）

11:30～12:10　高校での奨学金の情報ギャップの現実
－全国高校調査 2017 年と 2024 年の比較
〇藤森宏明（北海道教育大学）　〇王傑（慶應義塾大学）　小林雅之（桜美林大学）

12:10～12:30　総括討論

自由研究発表（ポスター発表）　5 月 26 日（日）　11:30～12:50

教室棟 1 階 コミュニティ・モール

ポスター発表

ポスター１　社会保障と高等教育の近接に関する一考察
－近年の政策動向に着目して
〇松村智史（名古屋市立大学）

ポスター２　フィンランドの高等教育における DEI 政策の特質
－国家および機関のレベルに着目して
〇鳥居朋子（立命館大学）　〇渡邊あや（津田塾大学）

ポスター３　いかに博士課程へ進学する学生を増やしていくのか？
－サラリーマン思考からの脱出
〇井村亜矢（大阪大学）

ポスター４　住民は地域にある大学についてどのような評価をしているのか
〇寺田悠希（東京大学大学院）

ポスター５　韓国の短期高等教育機関における保育者養成
－教員インタビューの分析から
〇長島万里子（洗足こども短期大学）

ポスター６　ベトナムの新モデル大学の特徴と意義　※遠隔地からの発表
－日越大学に着目して
〇楊武勲（台湾・国立暨南国際大学）

課題研究

（記載内容は、各課題研究の担当理事から提出された内容です）

課題研究　5月25日（土）13：00～15：00

課題研究Ⅱ　　教室棟3階 大講義室（本会場）・3-E 教室（サテライト会場）　オンライン併用

研究費ファンディングの国際比較

大学のファンディングに関して現実での様々な動きがある。たとえば、国際卓越研究大学、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業など、選択と集中がより強まっている。日本の高等教育ファンディングは他国と比べても特定の大学・大学群への集中度合いが高い傾向があったが、これまでの政策の検証も、他国の政策やその効果検証も十分に行われないまま、こうした政策が次々と展開されている。しかしながら、高等教育研究では近年、ファンディングに関する研究はその重要度に比して、必ずしも十分な研究が蓄積されておらず、こうしたことを批判的・建設的に議論する土台が不十分である。現在、起きている変化にどのような意味があるのか、それが何をもたらすのか、理解し、建設的な議論が行うこと、あわせてこの分野の研究の活性化につながることを期待して、研究費のファンディングの国際比較を2年間のテーマとして設定した。前期の課題研究Ⅰのテーマ「科学技術イノベーション政策と大学・高等教育」の議論を発展させた課題設定で、当該分野の専門家である小林信一会員、齋藤芳子会員の協力を得て進めている。

具体的には、日本および諸外国について、①大学の研究力を向上させるためにどのような特性のプログラム（政策）があり、国としてどのような政策が行われてきたのか、②なぜそのような変化が起きてきた／いるのか、③具体的に各大学にどのように配分され、競争の度合いや集中度はどのようになっているのか、④そうしたファンディングの効果はどのようになっているのかなどを議論していく。

どの国においても、ほぼ共通に、公的研究助成におけるGUF（General University Funds)からDGF(Direct Government Funds)へのシフト、COEタイプのファンディングの模索、政策目的に応じたプロジェクト・ファンディングの拡大と多様化などが起きている。経済安全保障の枠組みの中で、特定の研究領域・目的をトップダウンで強化する動きが進んでいるため、高等教育の政治化は研究費のファンディングの面でも強く表れるし、大学や学問への信頼の低下はこれらの変化をより加速させている。また、研究力が意味する概念自体も広がりを見せつつある。こうした状況を理解したうえで、各国で何が起きているのかについての理解を深めていきたい。

本課題研究では、大会時の報告・議論を深めるために、2023年11月から2024年5月にかけて、4回の勉強会（オンラインでの公開セミナー）を開催しながら進めてきた。そのことを踏まえながら、各国の動向をもとに研究費ファンディングの現状と課題を議論したい。

研究費のファンディングは、研究活動のみならず、大学や高等教育の様々な局面に関わる問題である。その意味で多くの会員にご関心を持って頂きたいと考えている。

（担当理事：両角亜希子・白川優治）

＜当日の内容＞

司会：白川優治（千葉大学）

趣旨説明：両角亜希子（東京大学）

報告：

・ドイツの動向について：竹中亨（大学改革支援・学位授与機構）

・イギリスの動向について：林隆之（政策研究大学院大学）

・韓国の動向について：鄭漢模（北海道大学）

コメント

藤垣裕子（東京大学）

課題研究　5月25日（土）15：15～17：15

課題研究Ⅰ　　教室棟3階 大講義室（本会場）・3-E 教室（同時通訳ありのサテライト会場）

オンライン併用

学生と大学：ガバナンスへの参加をめぐる過去・現在・将来

＜趣旨＞

本課題研究は、大学の第一のステークホルダーとも言える学生と大学との関係をテーマとして取り上げ、特に、学生による大学ガバナンスへの参加をめぐる過去・現在・将来に焦点を当てた議論を行う。高等教育へのユニバーサルな参加が広がり、同時に少子化による大学の淘汰が現実となるなかで、大学においても学生参画（student engagement）の理念と実践を大学教育の内部質保証のサイクルに組み入れることで、社会の要請に基づく学修者本位の大学教育実現への努力と探求が積み重ねられている。ただし、学生参画を、マクロ（ガバナンスへの参画）、メゾ（質保証・向上プロセスへの参画）、ミクロ（学生個人や他の学生の学習活動への参画）と分けた場合、日本の学生参画の取組は、もっぱらミクロ、メゾのレベルに集中し、マクロ・レベルについては、十分な研究・実践両面での検討が行われてこなかったのではないかと考えた。大学において学生の参加（participation）、参画（engagement）それぞれの実現には、学生と大学のリーダーや教職員との間に、マクロ、メゾ、ミクロそれぞれを貫き、連関させる形でのコミュニケーションが不可欠である。本課題研究では、歴史・国際的な広がりを意識しながら、以下の3名の識者（敬称略）に、学生による大学ガバナンスへの参加をめぐる過去・現在・将来、それぞれの具体的な場を設定した上で、論じていただく。

- 吉見俊哉（國學院大學）：〈劇〉としての「東大紛争：1968－69」
  ――〈闘争劇〉〈祝祭劇〉〈悲劇〉から〈メディア・イベント〉へ
- William Yat Wai Lo (Durham University): Bridging Divides in Crisis Times: Exploring the Dynamics among Student Leaders, Staff Representatives, and University Management in Hong Kong
- 髙橋裕子（津田塾大学）：2025年度入試からのトランスジェンダー学生（性自認による女性）の受験資格を認めるまでのプロセスについて

その上で、田中正弘（筑波大学）に「学生参加をめぐる高等教育研究の現在と将来―学生参加から学生参画へ―」を主題とした論点整理をしていただき、フロアとともに議論を深めていく。

＊本課題研究の企画には、担当理事（米澤彰純、鳥居朋子）の他、杉谷祐美子、田中正弘、清水栄子が参加している。

国際委員会主催企画
ランチミーティング

国際委員会主催企画　5 月 25 日（土）12:10～12:55

ランチミーティング 1　教室棟３階 ラウンジ ゼミ室Ｃ

留学生・外国人研究者との交流

＜趣旨＞

留学生・外国人研究者が日本の大学で研究を進めていく上での悩みを話し合いながら、参加者同士で交流することを目指す。関心のある日本人の学生や研究者も積極的にご参加いただきたい。

情報提供：鄭漢模
挨　　拶：中井俊樹
進　　行：王帥

ランチミーティング２　教室棟２階 ラウンジ ゼミ室Ａ

海外での調査や滞在に関する情報共有

＜趣旨＞

海外渡航が再開する中、今後研究目的で海外での調査や滞在を考えている方を対象に、事前に知っておきたい情報、疑問や悩みを話し合いながら、参加者同士で交流することを目指す。

情報提供：木村拓也
挨　　拶：福留東土
進　　行：坂本規孝

ランチミーティング 1、２共通事項

- 事前申込は、2024 年 5 月 22 日（水）17 時まで以下のフォームで受け付ける。（https://forms.gle/CU1U54nPkMkrpYNe7）
- 参加費は無料。
- 途中参加可、途中退場可、ランチミーティング間の移動可。
- 当日の飛び入り参加も歓迎する。
- 各自で昼食をお持ちの上ご参加ください。対面のみの開催です。
- 問い合わせ先：坂本規孝（国際委員、n-saka@hiroshima-cu.ac.jp）

大会校企画

公開シンポジウム

公開シンポジウム　5月26日（日）14:15～16:45

教室棟3階 大講義室（本会場）・3-E教室（サテライト会場）　オンライン併用

日本高等教育学会 第27回大会 大会校企画

教育の連続性を考える

―初等中等教育と高等教育との接続―

＜趣旨＞

デジタル技術の急速な進歩、人口減少と少子高齢化は、初等中等教育、及び、高等教育に大きな変化をもたらしつつある。現代は、VUCAの時代（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）とも形容され、そのような先行きが不透明で予測困難な時代の高等教育は、普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身につけ、高い専門性をもとに自分自身で課題を設定して、解決していくことのできる人材の育成が期待されてきている。

一方、初等中等教育段階では、新学習指導要領が2020年度から小学校、2021年度から中学校において全面実施され、2022年度から高等学校の新入生から年次進行で適用され始めた。この新学習指導要領においては、児童・生徒は学校教育の中で身につけるべき力として「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性」を育成することが重視され、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が強調された。特に高校教育においては、これまでの「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」とあらためられ、生徒が自らテーマや課題を設定し、他者と協働しながら、課題を解決する力の育成が重要視されている。このような新学習指導要領に基づく初等中等教育を経験した児童・生徒を、2025年度から大学は受け入れることになる。

こうした近年の初等中等教育改革と高等教育改革の動向は、教育の連続性という観点から見た時、どのように理解していく必要があり、そこには現在どのような課題があるのか。それは、高等教育にどのような変化を及ぼしていくのか。また、初等中等教育と高等教育をつなぐ入試のあり方は、現状どのような課題があり、どのような議論が必要なのか。そして、高等教育研究は、今後、初等中等教育と高等教育の接続の問題にどのようにアプローチしていけばよいのか。初等中等教育の改革動向、一貫教育、大学の入試選抜、教学マネジメント等の側面から幅広く議論していきたい。

講演：

高橋　洋平 氏 （鎌倉市教育長）

小原　一仁 氏 （学校法人玉川学園常務理事 / 玉川大学学長 / 玉川学園副学園長）

村上　雅人 氏 （情報・システム研究機構監事 / 日本技術者連盟会長）

モデレータ：川嶋 太津夫 氏（大阪大学特任教授）

司会：福井文威（鎌倉女子大学教授 / 日本高等教育学会第27回大会実行委員長）

※本シンポジウムは第27回大会の一部として実施するもので、大会参加者以外にも、オンライン配信に限り、無料で公開をしております。オンライン参加申し込みサイトはこちら：https://x.gd/FAjIv　申し込み締め切りは2024年5月24日（金曜日）18時まで。

今に生きる学生時代の学びとは
卒業生調査にみる大学教育効果

矢野眞和 著

「大学で学んだことは社会で役立たない」よく聞かれるこうした発言は果たして的を射ているのか。膨大な卒業生調査のデータを、社会工学や統計分析の知見を活かして実証的に分析。その結果浮かび上がった、卒業後に生きる大学の教育効果の真の姿とは。

A5判・336頁　3520円

データから読む高等教育の構造
日本型システムのゆくえ

藤村正司 著

日本の高等教育の未来像を描くために、新制後70年の拡大過程とその行き着いた現状の分析解明、そして改革の種がまかれた90年代以後の動向をデータで可視化。複数の文脈が折り重なり閉塞的な環境に追い込まれている高等教育の現状を打開する方法を、10年余に及ぶ研究の蓄積から探る。

A5判・472頁　7480円

カリフォルニア州高等教育マスタープラン
アメリカ大学モデルの創出 1850–1960

J・A・ダグラス 著　荒井克弘・田中義郎 監訳

1960年に策定されたカリフォルニア州の高等教育計画であるマスタープラン。3セグメント・システムを基本とするその内容と、時代の波に翻弄され激しい政治的交渉を経て実現に至った歴史的歩みが示される。格差が拡大する今、公的な教育機会の平等を目指したビジョンを振り返る意義は大きい。

A5判・504頁　8250円

大学教員の能力開発研究
ファカルティ・ディベロップメントの構造と評価

佐藤浩章 著

コロナ禍は図らずも史上最大規模のFD（Faculty Development）を国内各地や全世界にもたらし、大学教員とFDの変容を加速させた。国内外の大学教員の能力開発の構造と評価をその発展と実態により明らかにし、研究と実践の双方からこれからの時代と社会に相応しいFD概念を提言する。

A5判・232頁　4950円

大学のIRと学習・教育改革の諸相
変わりゆく大学の経験から学ぶ

鳥居朋子 著

大学における学習・教育に関するマネジメントやIRの在り方を、国内外の特色ある事例を基に追究。個別大学のケース・スタディを紹介し、組織がデータに向き合う際の目的や問いにどのように取り組んでいくのか、その方法から今後のIRの姿を探る。コロナ禍の大学の取り組みも紹介している。

A5判・188頁　4180円

日本のゼミナール教育
人文・社会科学領域等の学士課程教育における学習共同体の姿

西野毅朗 著

古くから重要視されながらも、あまり実態が把握されてこなかった日本のゼミナール教育の特徴を多様な角度から分析。歴史的経緯、現状と課題、さらに学生の学びの様子と社会とのつながり等、歴史的・量的・質的研究アプローチを用いて明らかにする。

A5判・324頁　4400円

学修成果の可視化と内部質保証
日本型IRの課題

山田礼子・木村拓也 編著

本書では、2010年から10年間の実践を基に、IR、学生調査、ポートフォリオというツールを統合的に利用しながら高等教育の内部質保証に向けた課題を整理し、そのグッドプラクティスを例示する。日本の高等教育研究者に向けて、今後の学習成果の可視化と内部質保証の手がかりを提案する。

A5判並製・232頁　3740円

シリーズ大学教育の質保証

学習成果の評価

竹中喜一 編著

学習成果の評価とその評価結果の活用方法について実践的な知識を体系立てて提示することで、大学教育の質保証に関わる教職員を支援する。特にカリキュラムにおける学習成果に着目し、設計から改善までの流れを記述。多様な実践方法の選択肢を提示し、読者が現場でアレンジできるヒントも盛り込む。

A5判並製・204頁　2200円

大学の教務Q&A 第2版

中井俊樹・宮林常崇 編

大学教育を支える教務の業務を遂行する上で知っておきたい実践的知識をQ&A形式で学ぶ、好評書の第2版。経験豊富な職員らが、入学・学籍・履修などカテゴリー別に、現場で蓄積した知識や具体的な対応策を回答。コロナ禍や大学設置基準改正等を経た環境の変化と現場の声を反映し、大幅に改訂した。

A5判並製・180頁　1980円

〒194-8610　東京都町田市玉川学園6-1-1　玉川大学出版部　Tel 042-739-8935　Fax 042-739-8940
www.tamagawa-up.jp（価格税込）

ゼミで学ぶスタディスキル【新版】

南田勝也・矢田部圭介・山下玲子　著

大学での学びの技法が詰まった入門書。情報収集から講義の受け方、ゼミ活動のツボ、図書館利用術、文献集めの技、レポート作成の極意、発表のスキルまで、幅広くサポート。（2024年刊行）

2,200円／B5判 並製／155頁
ISBN: 978-4-7793-0740-9

これからの社会を生きていくための人権リテラシー（第２版）

——高専発！ 書く・話す・考えるワークブック

栗本敦子・伏見裕子　著

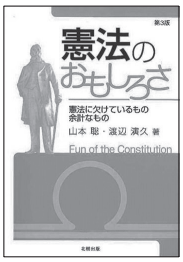
教材・研修等のテキストとして最適な一冊。これまでの人権教育における蓄積を盛り込み、最新トピックもカバー。（2024年刊行）

1,540円／B5判 並製／80頁
ISBN: 978-4-7793-0742-3

憲法のおもしろさ［第３版］

——憲法に欠けているもの、余計なもの

山本聡・渡辺演久　著



憲法の基本をウルトラマンや大岡政談等ユニークな切り口から解説。憲法の役割、成り立ち、自由・平等の理念、民主主義、国会、司法権、地方自治等を丁寧に解説した入門書。（2019年刊行）

2,530円／A5判 並製／228頁
ISBN: 978-4-7793-0596-2

ふれる社会学

第８刷出来！

ケイン樹里安・上原健太郎　編著

わたしたちをとらえて離さない社会。メディア、家族、労働、余暇、ジェンダー、セクシュアリティ、差別、人種等の視点から、身近な、そしてエッジのきいた14のテーマを読み解くことを通して、社会の大きな仕組みにふれる。（2019年刊行）

1,980円／A5判 並製／162頁
ISBN: 978-4-7793-0618-1

北樹出版　153-0061 東京都目黒区中目黒1-2-6　TEL: 03-3715-1525
FAX: 03-5720-1488　E-mail: eigyo@hokuju.jp（価格は税込）

第27回大会 協賛企業 一覧

・株式会社東信堂
・玉川大学出版部
・株式会社北樹出版
・株式会社 紀伊国屋書店

日本高等教育学会 第27回大会実行委員会

＜あいうえお順　〇実行委員長＞
・大村陽子（鎌倉女子大学学事調査研究センター）
・武井安彦（鎌倉女子大学学術研究所）
・戸村理（東北大学）
・長井総之介（鎌倉女子大学総務部）
・長岡暁夫（鎌倉女子大学教務部）
・永田紗弥佳（鎌倉女子大学学事調査研究センター）
・永吉敦子（鎌倉女子大学総務部）
〇福井文威（鎌倉女子大学学術研究所）
・松村智史（名古屋市立大学）

（2024年4月26日現在）

日本高等教育学会第27回大会プログラム
2024年4月26日 初版作成
2024年5月26日 修正第2版
作成：日本高等教育学会第27回大会実行委員会